

テーマ2：四日市の魅力の再発見と滞在・体験型観光

豊かな四日市の魅力を掘り起こし、市民が四日市の魅力を再認識し、四日市として誇れるものをブランド化する。また、産業都市の歩みの中で蓄積された宿泊施設や飲食店等の集積を活かしたビジネス観光の充実を図る。

現状と課題

西は鈴鹿山系、東は伊勢湾に面し、臨海部の工業集積、中心部をはじめとする市街地、半農半工の兼業農家によって保全されてきた農地が明確に分かれ、バランスのとれた土地利用が行われてきた。

このことを背景とし、豊かな自然環境と都市・産業基盤など多くの資源に恵まれ、観光資源としても魅力あるものとなっている。また、臨海部には、市民に親しまれる港づくりが進められている四日市港、特徴ある産業遺産、コンビナートの工場景観があり、ほかにも四日市萬古焼の生産地区に代表される産業観光の資源も有している。

一方、来街者を受け入れる主な宿泊施設の客室総数は約1,800室にのぼるとともに、現在もビジネス系ホテルの立地も進んでおり、滞在型のビジネスや観光の受入体制は充実している。

しかし、市民アンケートによる「観光・コンベンション」についての市民満足度は「やや不満」の傾向にあり、それに対する期待度は上昇していることから、このような多彩な資源を有機的に繋ぎ、ネットワーク化を図ることが求められている。

また、物産についても、全国第3位の生産量を誇る伊勢茶や大矢知手延素麺、地酒、四日市萬古焼に代表されるように、農産物から工業製品まで全国に誇れる豊富で多彩な地場産品があるが認知度は低い状態であり、四日市が持つ歴史や文化、産業、自然などの優れた資源を活用して、四日市独自の魅力を情報発信できる四日市ブランドの構築が必要である。

注) コンベンション：大規模な集会や会議、見本市・展覧会

【四日市の物産・観光】

主な特産品	四日市萬古焼、大矢知手延素麺、伊勢茶、地酒、食用油、シクラメン、梨、メロン、トマト、日永うちわ、タオル
主な観光	宮妻峡、もみじ谷、智積養水、吉崎海岸、伊坂ダムサイクルパーク、ふれあい牧場、四日市スポーツランド、四日市港ポートビル、霞ベイエリア、オーストラリア記念館、潮吹き防波堤、末広橋梁、内部八王子線（特殊狭軌線）
主な日本一	萬古焼「土鍋」生産、蓄養はまぐり出荷高

リーディングプロジェクト

（物産による魅力の発信）

生鮮野菜、肉類、魚介類、麺類、乳製品、飲料、酒類、調味料、萬古焼等の器類などの食卓のすべてが揃う豊富な地場産品を活かした魅力を発信する企画や、多くの酒蔵に供給されている鈴鹿山脈の伏流水の「おいしい水」を活かした特産品のほか、さまざまな物産開発及び宣伝、販路開拓・拡大に取り組む。

また、多様な主体の連携により、農産物を地域で加工、販売したり、観光産業と結びつけることなどが可能となる仕組みについて、明確な方向付けをしていく。

（観光による魅力の発信）

産業集積を背景としたビジネスの来訪者に、四日市を楽しんでいただくためのおもてなしを進めるため、市内観光の情報発信や案内機能の整備を行うとともに、豊富な飲食店と朝市などの組み合わせや、工場の夜景や光のイベント等の観光企画を提案し、ビジネス客を観光リピーターへと誘導していく。

また、コンビナートの工場群や酒蔵、窯元などを活かして、川崎市の産業観光ツアーの例などを参考に、産業観光の事業としての仕組みの構築に取り組む。

さらに、体験型観光や近隣の観光資源との広域連携等、観光のネットワーク化を図るとともに、おもてなし意識の醸成などにも取り組み、多くの人が集い、交流するまちの実現を目指す。

そして、市民一人ひとりが地域の魅力を再認識して、地元で生きる者の誇りにつながる新たな観光まちづくりを進める。

（情報発信の強化）

地域の農・商・工・観光事業者、観光協会及び行政等による協議会組織を確立し、地域の農産物や地場産品、工業製品の販路開拓や観光資源の効果的な情報発信のため、ターゲットを意識した広報戦略の構築やメディアの有効活用、流通業界等との連携を推進する。

また、四日市萬古焼の土鍋や煎粉（いらこ）、携帯用のリチウム電池や紙おむつなどの「四日市の日本一」、「四日市発」の地場産品や工業製品を本市の貴重な資源ととらえるほか、四日市として誇れるものをブランド化し、四日市のイメージと認知度を高めるため、すでに東京での販売戦略に成功している例などを参考に、継続的な情報発信も含め、都市圏の商店街などへのアンテナショップの展開や、海外姉妹都市、友好都市等との連携なども視野に入れた効果的な情報発信に取り組む。